



町長日誌

No.263

町長日誌の第 263 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆様のご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

9月17日（水曜日）PM1：30

朝方、秋雨と言ってもおかしくないような冷たい雨が降ったかと思うと昼頃からは結構な気温に上昇するという今日の空模様です。気が付けば山の木々もわずかながら黄色くなってきました。12 日夜の強風がイタドリや広葉樹の葉を落とし一息に秋へと季節を進めたようです。昨日から、興部高校への進学をお願いするため中学 3 年生の家庭訪問を始めましたが、小さいお子さんがコロナに罹ったとか、風邪をひいている方を多く見受けました。収まったかに見えるコロナは増える傾向にあります。65 歳以上の高齢者の皆さんが対象のワクチン接種は 10 月から始まります。国の支援は今年打ち切られましたが、町がその分を負担し今年も 2,000 円で接種が出来ますので、ご検討をお願いします。

8月29日（金曜日）

札幌市を会場に雪印メグミルク(株)と道内 6 工場が所在する町が集まり町長と社長はじめ幹部役員との意見交換や懇親を行う会が開催されました。この会は平成 15 年に別海町で第 1 回が開催され、途中コロナ禍のため 3 年お休みをしましたが、それ以外は毎年開催され今年で 19 回目となりました。この会のまとめ役である座長は別海町長から大樹町長、そして私が 3 代目となり幹事役を本町の産業振興課が担っています。今年雪印メグミルク(株)は創設 100 周年を迎え雪印のマークが変わったことはご存じでしょうか？ 興部町に雪印メグミルクの始まりである北海道製酪販売組合が進出したのは 1934 年（S9 年）で、その後会社名が幾度も変わり 1950 年（S25 年）雪印乳業興部工場が誕生しました。そして、2009 年（H21 年）10 月に雪印メグミルク(株)へと変わり現在に至っています。佐藤雅俊社長は「本社を今年 12 月に東京四谷から官庁街である虎ノ門に移転する。虎ノ門は 3 代目の社長が東京でバターを売るための拠点とした場所で縁を感じる。」と言われていました。因みに、道内 6 工場のある町は別海町・中標津町・標茶町・大樹町・幌延町そして興部町です。

9月11日（木曜日）

東京で会議があるため紋別空港へ向かいました。出発の午後 1 時 5 分ごろ急に雷雨が激しくなり離陸が危ぶまれましたが、何とか飛び立つことが出来て順調な飛行でした。羽田空港到着は 10 分ほどの遅れで普通に着陸しました。ところが機長から「雷雲が近づいているため地上作業員は全員避難します。当機はしばらくここで待機します。」という説明があり 30 分ぐらい待つてほしいと言う事でした。しかし、次第に薄暗くなり雨が降りだし、すさまじい風と雷がゴロゴロ、ピカッです。横殴りの雨で飛行機の羽の先が見えないほどでした。機長からは「次々雨雲が流れ込んできているため更に遅れます」との放送。今度は風がすさまじく機体がひっくり返るのではと思う程の揺れでした。機内はトイレ希望者への対応で添乗員も右往左往、そのうち品川周辺で「短時間大雨情報」が発出されたため機内は乗客の携帯電話の発信音が「ピーピー…」と鳴り出し、乗客は一層不安が増してきます。1 時間半が経過して少し明るくなりましたが地面は空港全体が水浸しの状態でした。4 時 45 分ごろ飛行機は動き出し 5 時頃やっと空港に入ることが出来ました。後からの話ですが、羽田に着陸できず名古屋空港などに回された飛行機も多かったと言う事で、何が幸いか判りませんが、北海道では経験したことのない暴風雨の恐ろしさを体験しました。

秋祭りも終わり彼岸となります。新学期が始まった子供たちは学校祭・学芸会に向けての練習が始まります。9 月定例議会は 19 日に閉会を予定していて現在令和 6 年度の決算を審査しています。昨今、財政難とか事業費見直しの話が新聞等でよく目にします。いつも申し上げていますが町の財政も皆さんの家計のやり繰りも同じなのです。隣の町と同じようにはならないのが現実で、それぞれ工夫をしながらまちづくりを進めるこれが「町のやり繰り」なのです。広報やこの日誌でできるだけ情報をお知らせしながら進めていますが、お聞きになりたいことやご意見がありましたら遠慮なくお手紙やお電話をください。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131 です。